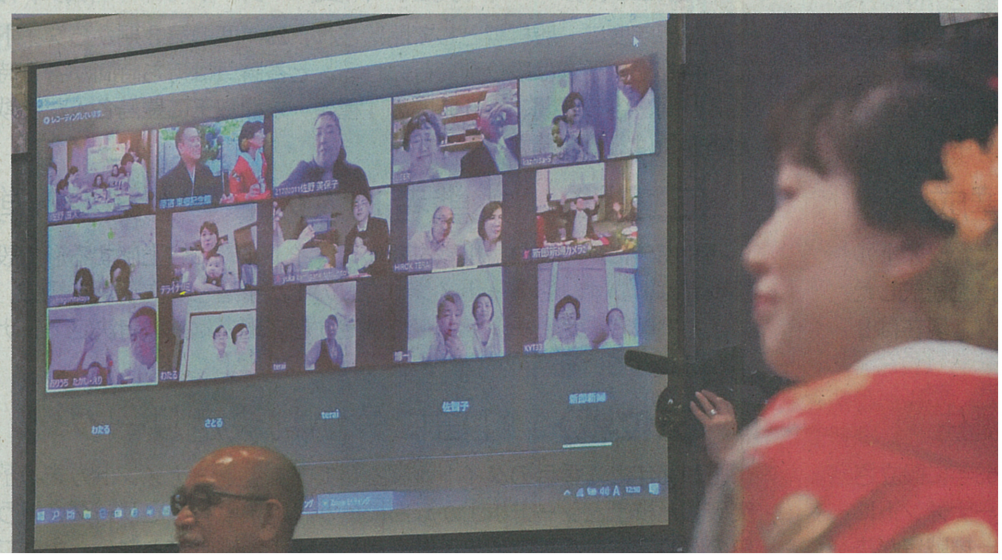
静かな気合

気合や掛け声でなく、空手着の擦れる音が道場に響いた。240人の生徒を抱える極真館見山道場（埼玉県蓮田市）では、新型コロナウイルス感染症対策のため、検温、消毒、換気などの対策に加え、フェースシールドを装着して稽古を再開。約75畳ある道場内での「密」を避けるため、一度に稽古する人数を10人ほどに絞って時間割を組み、オンライン稽古にも対応している。水分補給や呼吸を整える時間を頻繁に設け、熱中症対策も行う。「コロナ禍での生活に自覚を持たせる意味でもフェースシールドをつけて稽古しています」と見山弘志師範(57)は前向きだ。